

BLACKHEATH PARK

July 31, 1867

My dear Grote*¹

I inclose a note which
I have just received from Mr
Waley.*² I had myself also
had a letter from Prof. Cairnes*³
in which while assenting to
my strong recommendation not
to resign the Professorship at
present, he expresses his

opinion that Leslie*⁴ would be
a very proper substitute.*² I
have written again to Cairnes
and am waiting for his reply,
which will probably bring a
formal recommendation of Leslie
if this has not been already
sent to the Secretary.

I am extremely glad
that you were able to induce

the Council to take no step
on the subject of Professor Beesly.*³

I am my dear Grote
ever yours truly
J. S. Mill

注1 1944年、ヘンリー・グロート・レウイン (Henry Grote Lewin) の未亡人で、ミンナ・E.レウイン (Mrs. Minna E. Lewin) が所蔵する自筆書簡。ベクスヒル・オン・シー、ストーン・ハウス在住 (the Stone House, Bexhill on Sea.)

2 書簡 1116 [『全集』16巻、1293頁。ジョン・エリオット・ケアンズ宛書簡] と書簡 1119 [『全集』16巻、1295頁。同ケアンズ宛書簡] を見よ。

3 エドワード・S. ビーズリー (Edward S. Beesly. 1831-1915) は、ユニバーシティー・

カレッジ (University College) の歴史学教授で、大学ホール館長 (principal of University Hall) であった。また、1860 年から 1889 年まではラテン語教授でもあり、イギリス実証主義指導者の一人で、労働問題の精力的な運動家であった。

1867 年 7 月 2 日、エクセター・ホールでの講演でビーズリーが対抗しようとしたのは、1866 年 10 月のシェフィールド「暴行」から生じた、労働組合に対する敵意の高まりであった。順番に彼は、アイル総督 (Gov. Eyre) との関係を断つことをしない富裕層を、そして憤っても改革問題を妨げるだけなのに、組合に憤っている中間層を批判した。『パンチ (Punch)』は彼を「だめ教授 (Professor Beastly)」と呼び、フランシス・ゴールドズミッド (Sir Francis Goldsmid) はユニバーシティ・カレッジ評議会の席上で、ビーズリーを講演での軽率さと、そして 7 月 9 日、10 日『デイリー・ニューズ』(Daily News) で公開された 2 通の書簡とを理由に解雇するよう提案した。ビーズリーの要領の悪さに閉口しながらもグロートは、ゴールドズミッドの動議を何とか握りつぶした。そしてそれ以上の企ては起きなかった。H. H. Bellot, *University College, London*, pp.333-35.を見よ。

*1 ジョージ・グロート (George Grote. 1794-1871) は、『プラトンと、ソクラテスの他の仲間たち』(*Plato and the Other Companions of Sokrates*. London: Murray. 1865) の著作で知られる。『全集』16 巻、1 頁、書簡 8.1 でグロート夫妻への書簡が掲載されている。その注 1 には次のように紹介されている。ジョージ・グロートは、銀行家で下院議員であった (1822-1841 年)。後にギリシャの歴史学者となった。[妻は] ハリエット・グロート (Harriet Grote.旧姓 Lewin. 1792-1878)。グロート夫妻は、ベンサム哲学信奉者グループの中心であった。

*2 身元不明。『全集』32 巻、116 頁、書簡 336A で、ジェイコブ・ウェイリー (Jacob Waley) 宛ての書簡が掲載されており、彼は、ロンドンのユニバーシティ・カレッジ経済学教授として紹介されている。

*3 ジョン・エリオット・ケアンズ (John Elliot Cairnes. 1823-1875) は、ミルの弟子であり親友である。"The Laws, According to Which a Depreciation of the Precious Metals Consequent upon an Increase of Supply Takes Place, Considered in Connection with the Recent Gold Discoveries," *Journal of the Dublin Statistical Society*, Pt. XIII (Jan. 1859), pp. 236-269 (『全集』32 巻、117-118 頁。1859 年 6 月 11 日付書簡、388A、注 2)。同書簡 388A の本文では、ダブリン大学経済学教授 (the Whately Professor of Pol. Economy at Dublin University) と紹介されている。

*4 身元不明。